――話は変わりますが、キッズデンタルパークを始めようと思ったきっかけは何だったのでしょうか?

麻生　予防歯科の聖地と呼ばれる、スウェーデンのカールスタッドに研修に行ったときに、オーラルヘルスセンターの年代別来院患者のデータを見せてもらって、ショックを受けたことが始まりです。定期来院が3歳から19歳で85%に達していて、日本では考えられない数字に驚きました。それから、これは忘れもしないことなのですが、現地の講師の先生から、「本当に日本で予防歯科が出来るの?そもそもあなたたちの気持ちが予防に向いているの?」と言われたんですよ。それで火が付いて、日本にも子どもからの予防歯科の意識と環境を根付かせようと、キッズデンタルパークを始めたわけです。

――構想はご自身で考えられたのですか?

麻生　国内外の小児予防を実践されているクリニックを見せていただいて、自分だったらどういう風にするかを考えました。主訴を言えない未病の状態の子どもたちに来院してもらうのは大変です。いかに歯科に興味や関心を持ってもらって、行ってみようと思わせられるか。空間デザインもそうですし、お稽古のような楽しいプログラムもそうですし、それらのトータルプロデュースを重視して作りました。

――中でも、821(ハニー)クラブは特徴的な取り組みですね。

麻生　821クラブは3歳未満の子どもに1次予防を習慣づけのための学習教室です。遊びやゲームの要素を取り入れながら、歯ブラシを口に入れることやお母さんによる仕上げ磨きに慣れてもらいます。保護者の方にも同席していただくことで、予防の大切さを伝えられますので、患者教育としても重要な場です。その結果として、メンテナンス患者の増加に繋がりますので一石二鳥ですね。

――小児歯科は子どもが泣いてしまって大変だと聞くことがあるのですが?

麻生　テレビを見せたりゲームをさせたりしている歯科医院もあると思うのですが、当院では歯科衛生士と子どもが対話をしてしっかりと向き合うことにしています。診療時間など効率は悪くなりますが、そんなことは気にしません。そうすると、1時間も一緒にいれば、子どもの方が根負けしますから(笑)それに、対話していれば、心のスイッチがどこにあるのかも分かってきます。また、子ども同士を競わせることも大切です。821クラブは小グループ制の

ため仲間意識も出来ますし、診療の際は横並びでユニットに座りますので、あの子が頑張っているんだから、僕も私も頑張るという気持ちになります。まだ泣いている子どもがいても、こちらが言う前に、子ども同士で「みんなで頑張ろうよ」と言ってくれることもありますよ。

――それは子どもの成長にも繋がりますね。

麻生　そういったことも意識していまして、821クラブを通して子どもの自立支援のサポートが出来ればと考えています。その一環として、当院では、3歳になったら母子分離を行い、一人で診療を受けていただくようにしています。通常であれば、恐怖心でなかなか難しい面があるでしょう。しかしながら、821クラブに定期的に通うことで歯科医院に対する恐怖心がなくなりますし、予防歯科の啓蒙教育を受けていることで、歯科医院に対するイメージも変わっていきます。821クラブはそのための準備期間でもあるわけです。

――小児矯正にも力を入れているとお聞きしました。

麻生　821クラブでお子さんを見たり、親御さんとお話しておりますと、口腔機能不全の症例が多くなってきていることが分かります。上顎骨も下顎骨も狭いために、叢生など歯並びに問題があったり、呼吸トラブルやアレルギー疾患にも繋がっているのです。そういったことを改善して機能を獲得するための矯正治療が必要になってくるわけですが、低年齢から口腔内を診ていることによって、その診断がいち早く出来ます。しかも、歯科衛生士が日頃の会話の中でそういった矯正治療の必要性をお伝えしているため、特にこちらからおすすめしなくても、受けていただけるのです。これは経営面で大きなメリットになりますね。

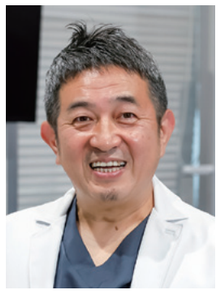
――その流れとして、今年の1月にアソオルソを作られたわけですね?

麻生　患者さんが増えてきて、一つのところでは診きれなくなったので、矯正専門のクリニックを開院しました。今お話ししたような小児矯正とアライナー矯正を主体にして、「より早く、より痛みがなく、より確実に」を診療コンセプトにして、患者利益を追求しています。

――最後に、今後の展望を教えて下さい。

麻生　まず、キッズデンタルパークのフランチャイズ展開を拡大させていきたいということがあります。あと、機能矯正をさらに進化させたいですね。こちらからは、歯並びだけでなく口元自体を治すオーラルプロポーションの時代が来ると思います。顎が歪んでいる患者さんはすごく多いですし、まだ潜在的にですが治したいと考えていらっしゃる方も多いのではないでしょうか。ですから、口腔内の矯正に加えて、口腔外の輪郭形成手術を行うことによって、口元をトータルで治していきたいと考えています。しかも、短期入院だったりワンデー手術で、より早くより快適にしていきたいですね。それから、障害者歯科など他にも色々なプランを考えています。私自身、誰もやりそうもないことに惹かれる性格ということもありますが、破壊の多い歯科診療からクリエイティブな仕事を生み出して、次の世代に残していくこともオヤジ歯科医師の使命じゃないかと考えて、これからも頑張っていきます。

新たな考えを次々と行動に移し、具現化してきた麻生先生。自身の歯科医療に対する確固たる哲学と、実現させたいという情熱が、周りのスタッフの心を動かし、患者の支持を集めている理由だろう。



Profile　麻生幸男(あそう・ゆきお)
1996年 明海大学附属病院口腔診断学講座入局
1999年 麻生歯科クリニック開院
2006年 医療法人社団ワンアンドオンリー設立
2009年 麻生キッズデンタルパーク開院
2024年 矯正歯科アソオルソ開院

日本口腔インプラント学会専門医
国際口腔インプラント学会認定医
ジャパンオーラルヘルス学会認定医

医療法人社団ワンアンドオンリー
麻生歯科クリニック
静岡県静岡市葵区春日2-12-5 A.S.Oビル